

自分を好きになる

発行日 平成31年 1月15日

◎3学期始業式

半年足らずの平成最後の年がスタートしました。白いダルマは、2学期終業式で見納め。今年、昇降口で毎日送り迎えをしてくれるダルマの色は、「夢を実現する」オレンジです。自分自身の夢の実現に向かって努力を積み重ねていきましょう。くじけそうになったときも優しく励ましてくれると思います。



◎校長講話より

「未来は逆風の向こうにある」～Appleをつくったスティーブ・ジョブズ～

明けましておめでとうございます。いよいよ新しい年の始まりです。今年、平成最後の年。新しい元号はまだ発表されていませんが、今年の5月には新しい元号に変わります。そのような貴重な年の始まりですから、今日は未来について話したいと思います。

この人がだれか知っていますか。そうです、いま世界中の人が当たり前のように使っているiPhone, iPadを作っているAppleの創業者、スティーブ・ジョブズ氏です。彼は、今から7年前、2011年10月5日、56歳の生涯を閉じました。

生まれたのは1955年2月24日、誕生以前から、養子に出すことに決められていて、スティーブを大学に進学させることを約束したためスティーブはジョブズ夫妻に引き取られることになりました。

1960年(5歳)になり、ジョブズ一家はカリフォルニア州バロアルトに転居し、1961年、6歳になったジョブズは、モンタ・ロマ小学校に入学。幼少時代のジョブズは、とても手のかかる子供で、ヘアピンが電気を通すのか確かめるために、ヘアピンをコンセントに差し込んで感電したり、小学校では授業中に花火をしたりするなど、エピソードに事欠かない少年だったといえます。

1965年10歳の時、快活で機転の利く女性教師と出会い、勉強が好きになり、翌年の1966年、11歳ながらジョブズは知能検査で「高校2年生レベル」の結果を出し、1年飛び級でクリッテンデン中学に入学します。しかし、柄の悪い校風に嫌気がさしたジョブズは、登校拒否になり、仕方なく一家はロスアルトスのクリストドライブ2066番地のガレージ付の一軒家に転居し、クバティーノ中学校に転校しました。

1971年(16歳)、高校生になったジョブズは、のちのAppleの共同創業者となるスティーブ・ウォズニアクと出会います。無料で長距離電話をかけられるオリジナルのブルー・ボックスを作り上げました。これは不正行為でしたが、2人は、この装置で長距離電話をかけまくったといえます。

1972年(17歳)、オレゴン州のリード大学へ進学。ジョブズは大学に半年間通いましたが、興味のない必修科目を履修することを嫌がり、「両親が一生をかけて貯めた学費を、意味のない教育に使うのに罪悪感を抱いた」ために中退します。しかし中退後もリード大学のキャンパスを放浪し、哲学やカリグラフィー(西洋書道)など、興味のあるクラスだけを聴講するもぐりの学生として過ごし、合計18ヶ月をリード大学に費やします。そんな時、スティーブ・ウォズニアクとともにロスアルトスのガレージで製造したコンピュータをアップルと名付け、1976年(21歳)6月にApple I販売を開始しました。

1977年(22歳)6月5日、Apple IIを販売し、爆発的人気を呼び、自宅からスタートしたアップル社は、シリコンバレーを代表する企業としてサクセスストーリーを築きます。

本人の立ち居振舞いが社内を混乱させたとして役職を解任され閑職へ追いやられた為、1985年(30歳)にアップルを辞めます。アップルでの仕事がなくなったジョブズは、理想のコンピュータ像を求めて大学を歩いて回った際に、スタンフォード大学でノーベル賞受賞者の生物学者ポール・バークと一緒に昼食を取った時に、DNA組み替え実験の難しさの話題が上がり、ジョブズは、バークにコンピュータでのシミュレーションを提案し、同時に、高等教育のためのコンピュータという構想を

ふくらませます。その構想を実現すべく、ジョブズは、1985 年(30 歳)9 月 12 日、新しい会社 NeXT を立ち上げます。

アップル退職後、NeXT 社の仕事の一方で、ジョブズは 1986 年(31 歳)2 月 7 日にルーカスフィルムのコンピュータ関連部門を買収し、ピクサーと名付け、その CEO の座に就いた。ピクサーの主要商品は『ジュラシックパーク』のコンピュータグラフィックス制作でも使われたものです。

1991 年、ピクサーは、4 年の歳月をかけ全編コンピュータ・グラフィックスのアニメ映画『トイ・ストーリー』をつくり、1995 年(40 歳)11 月 22 日に封切られました。

1996 年、業績不振に陥っていたアップル社に NeXT を売却すると同時に復帰、1997 年(42 歳)には、暫定 CEO となる。同年には、不倶戴天のライバルとさえされていたマイクロソフトとの提携と、同社からの支援を得ることに成功し、また社内ではリストラを進めてアップル社の業績を向上させた。

1998 年(43 歳)には、iMac を市場に投入、大ヒットとなりアップルの復活を人々に強く印象づけた。

2000 年(45 歳)、正式に CEO に就任。2001 年(46 歳)、iTunes と iPod によって音楽事業に参入、音楽事業をパソコンと並ぶアップルの事業の柱にします。

2007 年(52 歳)1 月 9 日、iPhone を発表。

2010 年(55 歳)1 月に発表された iPad は、iPhone の機能をベースに、画面を雑誌サイズにしたことで、更なる大きな可能性を世界に与えました。

2011 年(56 歳)10 月 5 日、妻や親族に看取られながらパロアルトの自宅で死去しました。

彼に対して、有名人は次のように言っています。

バラク・オバマ大統領は、「スティーブはアメリカのイノベーターの中で最も偉大な一人であった。違う考えを持つことに勇敢で、世界を変えられるという信念に大胆で、そしてそれを成し遂げるための十分な能力があった。この星で最も成功した会社の 1 つをガレージから作り上げることで、彼はアメリカの独創性の精神を実証した。スティーブは毎日が最後の日であるかのように生き、私たちの生活を変え、全産業を再定義し、私たち一人一人が世界を見る方法を変えた。」

ソフトバンクの孫正義社長は、「スティーブ・ジョブズは、芸術とテクノロジーを両立させた正に現代の天才だった。数百年後の人々は、彼とレオナルド・ダ・ヴィンチを並び称する事であろう。彼の偉業は、永遠に輝き続ける。」と。

また彼自身は、スタンフォード大学の卒業式のスピーチで次のようなことを言っています。

「人生は短い。他人の言いなりになるな。常識にとらわれるな。周囲の雑音に惑わされるな。そして最も重要なのは、勇気を持って心の声や直感に耳を傾けることだ。何者になりたいのかは、自分が一番よく知っている。」

「未来を見据えて何が起きるかなんて予測は不可能だ。いつも過去を振り返ってみて、あれとこれは繋がっていた、としか言えないんだ。だから自分自身が信じられるものを信じるしかない。それが勘であれ、運命であれ、人生であれ、因果であれ、なんであれ、だ。このやり方で私は後悔したことはないし、私の人生で非常に大きな役割を果たしてきた。」

また、(京都大学客員准教授)の瀧本哲史は「ミライの授業」という著書の中で次のように言っています。

「未来は逆風の向こうにある」

大人には、知識がある。経験がある。若者には、未来がある。可能性がある。

大人は自分の常識で物事を判断し、使い古された物差しで評価する。

その物差しには測り切れないものがある。それは未来であり、可能性。

世界を変える旅は、自分を変えることから始まる。まずは自分を変えよう！大人たちの物差しでは測り切れない可能性を信じて。

周囲の妨害（逆風）に立ち向かうためには、「賛成する人がほとんどいない時、大切な真実はなんだろう？」と大切な真実に立ち返ること！

何か新しいことをしようとしたとき、「前は違った。そんな新しいことをして大丈夫か」と反対されることがあります。でも、そこで立ち止まっていたら、先に進めません。時代は変化しています。変化に対応するためには、新しいことを創造しなければなりません。新しい時代に生きる君たちは、過去の常識では対応できない場面に直面するかもしれません。そんな時、スティーブ・ジョブズさんのように、躊躇せず、自分の可能性を信じ、自分が一番大切にしたい本質に立ち返って、新しい道に一步、踏み出してほしい。未来は、逆風の向こうにあるのです。3 学期は 1 年まとめの学期。1 日 1 日を大切に生活していきましょう。